

介護の力

大分県 上小学校 6年 後藤 愛海

今、日本には「認知症」という病気が話題に上がっています。

認知症を有する高齢者の人口の推移をみると、2015年には262万人、2020年には292万人にもおよぶそうです。

私が調べた認知症という病気はいろいろな種類があり、その中でも自分の誕生日を忘れてしまったり、食事をしたことを忘れてたりなど、話がかみ合わないことが多くなる症状があります。

私のお母さんは、認知症の人の介護をしています。患者さんからつねられたり引っかけられたりされて、本当にそんなことをする人がいるのかと驚かされました。しかし、その人たちはわざとしているわけではなく、病気なのです。

認知症の人にも尊厳や人権があり、人として尊重されなければいけません。だから、その人のことを思い、介護する必要があると思います。私のおばさんも重度の障がいがあり、介護を必要とした生活を送っています。

私のまわりには「介護」という人の役に立つ仕事、人と人のかかわりを大切にしようと思える仕事があります。お母さんの話やテレビなどを見ると、「介護」の仕事はとても大変な、そして大切な仕事だとわかります。

認知症の人が勝手に自由行動して事故にあわないよう、夜もずっとつきっきりで介護をしている人がいます。認知症になってしまった人のために、たくさんのお金をはらってカメラを取り付けて、大切な命を守る。家族の支えで、一つでも命をなくさないように、まわりの人と協力し合い、助け合うことが大切だと思います。

でも、私はそんな大変な「介護」の仕事に身近に接して、とても大事だと感じています。

たとえば、私のおばさんも、お風呂に入ったりご飯を食べたりするのも人がいないとできません。私も手伝っています。

世の中の人たちが私のように感じてくれる社会になったらいいと思います。

そのためには、自分も、まわりの人も、もっと認知症や介護のことを学ばなければいけないと思いました。

学んでいけば、認知症の人や障がい者のまわりの人も、見るだけではなく、重い荷物を持ってあげたり、いろいろなことができると思います。

これから認知症や障がい者に対してやさしく接し、明るい社会にしたいです。そして、私自身が介護の力と心を身につけたいと思います。